

普及活動情勢報告（令和3年11月分）

高吾農業改良普及所

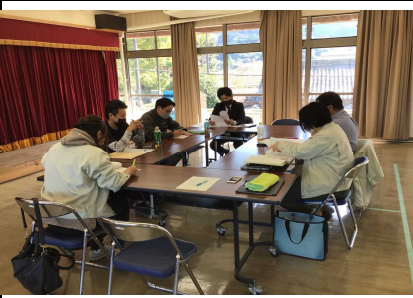
露地ショウガの収穫が始まりました！



11月に入り管内の露地ショウガの収穫が最盛期を迎えています。JAでは収穫に先立ち受込前説明会を開催し、10月25日にJA佐川支所で9戸、28日にJA日高支所で5戸に受込スケジュールや管理手順を確認しました。普及所からは収穫前の防除履歴の確認や作業者の安全対策徹底、次作に向けた防除対策を指導しました。参加者からは「病気の出た畑への対応は？」と質問がありました。その後GAP点検シートを用いて参加者による自己点検を行いました。

普及所では露地ショウガの土壌病害まん延を防ぐため、GAP点検シートを活用し、ほ場管理から出荷に至るまでの各段階で防除対策の徹底を推進しています。今後も持続可能な露地ショウガ生産を目指し支援していきます。

ニラ新規就農者を支援しています！



11月8～9日に、ニラ新規就農者2戸との経営面談を行いました。就農前の研修先農家とJA営農指導員及びJA金融担当にも同席してもらい、今作の前半を振り返りました。

今作の実績を前年実績や計画と比較した結果、「ほ場準備の失敗が生育不良の原因になったので、次作では余裕をもって準備する」、「去年は内張の展張遅れが減収につながったので、11月中旬には内張を張る」といった意見が聞かれました。生産者が自身の改善点を把握し、今後の課題を整理することができました。

普及所では今後も、関係機関や部会と連携した新規就農者の支援を行っています。

陸を走るドローン、、、！？



佐川町スマート農業推進協議会が、11月11日に梨の実証園地で農業用無人車「R150」とアシストスーツ「ATOUN model Y」の現地実演会を行いました。管内農家6戸を含め、各メーカー、県内関係機関から19名の参加がありました。

実演会では、普及所とメーカーで各機器について説明を行い、実際に収穫した梨を自動追尾走行で運搬したり、地点間の自動往復走行を行いました。参加者からは、「何に反応して追尾してくるのか？」「自動走行中は目を離していても良いのか？」など自動走行の仕組みや安全性についての質問がありました。

普及所は、今後もスマート農業機器を活用した農作業の省力化技術の確立・普及を支援していきます。

促成高糖度トマトの出荷がはじまりました！



JA高知県日高支所ハウス園芸部では、20戸の農家が7.7haで促成高糖度トマトを栽培し、11月12日時点で8戸の農家で出荷が始まっています。農家からは「かん水量についてはこの程度でいいのか」など質問があり、普及所ではその都度、葉芯の色や葉露の状態を見てほ場に合ったかん水指導を図ってきました。

その結果、出荷場の平均糖度が7.5と目標としていた糖度で出荷ができています。

普及所は今後も引き続き巡回等を通して、高品質の高糖度トマトを安定出荷できるよう支援していきます。

自走式茶園管理機現地検討会が開催されました！



10月21日に仁淀川町高瀬で自走式茶園管理機の現地検討会が開催され、農家・関係機関6名が参加し整枝作業を見学しました。

これまでの可搬型機械では茶葉の収穫には3名、枝の整枝には2名が必要だったのが、この機械では1名で作業が可能で、傾斜度15°以下、畦幅150～180cmに対応しています。また軽トラックに積載できるので、山間地の茶園の近くまで機械の運搬が可能です。

普及所からは機械導入に対する支援制度や「台切り」による茶樹の樹勢回復について説明しました。

参加者からは「自分の茶園は畦幅が広いので、脚幅を変えられたら使えるかも」という声がありました。

普及所は今後も茶園作業の省力化を支援していきます。